



国際交流ひろば

2026
夏

KAGOSHIMA INTERNATIONAL ASSOCIATION NEWS

VOL.277/2026

鹿児島県国際交流協会の夏講座のご案内



日本語日本理解講座

生活の中で使う日本語や、日本文化を勉強します。日本語をはじめて勉強する人も勉強できます。

いつ？ 9月-12月 毎週木曜日 18:30-20:00

だれ？ 鹿児島県に住んでいる外国人（18歳以上）

おかねは？ 全15回で¥3,000

どこで？ カクイックス交流センター1階

※しめきりは8月20日（木曜日）17:00まで

申し込みQR→



ベトナム語初級講座

ハノイ出身の講師（鹿児島県国際交流協会生活相談専門員）と一緒に、ベトナム語を学びませんか？

日時：8月9日-9月6日 毎週日曜日
（全5回）13:30-15:00

場所：カクイックス交流センター1階
会議室A

参加費：¥3,000

※申し込みは、
電話 099-221-6620
にて事前予約制・先着順
（担当：リエン）

みんなの交流会 インドネシアの文化

インドネシアの伝統的な竹製打楽器アングルの演奏体験ができます♪

日時：8月29日（土）14:00-16:00
会場：カクイックス交流センター1階・レクチャースペース

参加費：無料

申し込みQR→
（要予約・先着順）



ベトナム文化体験講座

日時：9月13日（日）10:00-12:00
会場：カクイックス交流センター1階・レクチャースペース
参加費：¥1,000

ベトナム料理講座

ハノイ名物・BUN CHA※（予定）を作りながら、楽しく交流しましょう。（※ベトナムのつけ麺として親しまれている料理）

日時：9月20日（日）10:00-14:00
会場：カクイックス交流センター5階・調理室
参加費：¥2,000

※講座詳細や申し込み等については、別途チラシまたは協会HPをご覧ください

講座の詳細については、
（公財）鹿児島県国際交流協会の
ホームページ →
をご確認ください。



ことばでつなぐKagoshima

鹿児島県の外国人が、地域の中で安心して暮らせるように——
今号は特別企画として、今年度、県教育委員会に新設された
「日本語指導支援専門員」の方にお話を伺いました。

鹿児島県教育委員会義務教育課 日本語指導支援専門員 鳥居 里美 先生

Q1 今年度新設された「日本語指導支援専門員」について教えてください。

鹿児島県では、外国人住民の増加に伴い、家族で来日する子どもたちも年々増えています。しかし、そうした子どもたちは県内各地に散在しているため、日本語指導が必要でも、各学校に専門の教員を配置することは難しいのが現状です。そのため、受け入れた学校や市町村教育委員会が対応していますが、現場からは戸惑いの声も聞かれます。こうした状況を受け、今年度、県教育委員会に日本語指導支援専門員が配置されました。県内全域の学校や市町村教育委員会からの相談対応や学校訪問、研修等を行っています。外国ルーツの子どもたちが安心して学べる環境づくりを支えることが、私の役割です。

Q2 具体的にどのような業務を行っているのでしょうか。

主な業務は、日本語指導が必要な児童生徒の受入校や市町村教育委員会への支援です。学校訪問やオンラインでの助言のほか、校内研修や市町村教育委員会向けの研修も行っています。実際には、「日本語が話せない子どもにどう対応したらよいかわからない」「何から始めればよいのだろう」といった相談をいただきます。そんな時、まずお伝えするのは、「大丈夫ですよ」ということです。日本語が話せないことに目が向きがちですが、その子どもたちも日本の子どもと同じ子どもです。慣れない環境の中で不安を抱えているので、まずは安心して過ごせる環境をつくるのが大切だとお話ししています。その上で、子どもの様子や学校の状況を伺いながら、日本語指導や保護者対応について一緒に考えていきます。現場の先生方は日頃から子どもたちと向き合っ



日本語指導支援専門員 鳥居里美先生

Q3 先生ご自身は、どのような経緯で日本語教育に携わるようになったのでしょうか。

最初から日本語教育を専門にしていたわけではありません。私と学校との関わりは、小学校での英会話活動協力員（ECA）から始まりました。前職で英語を使う仕事をしていたこともあり、その経験を生かしたいと思ったのがきっかけです。その中で、「子どもたちの成長に寄り添う学校の先生は素敵だな」と感じ、そこから教員免許を取得して小学校教員になりました。教員時代には外国ルーツの児童が在籍する学校に勤務することもありましたが、外国語ができることと日本語指導ができることは別だということを実感しました。その後、日本語教室の教員として着任したことが大きな転機でした。しかし、当時は日本語指導についてほとんど知識がなく、何をどうすればよいのか分からない状態でした。そこで県外の実践者や研修から学び、知識と経験を積み重ねていきました。振り返ると本当に手探りのスタートでしたが、その経験があったからこそ、今、現場で戸惑う先生方の気持ちがよく分かりますし、少しでも力になりたいという思いで現在の業務に取り組んでいます。

Q4 日本語教室を担当されていた頃、特に印象に残っていることはありますか。

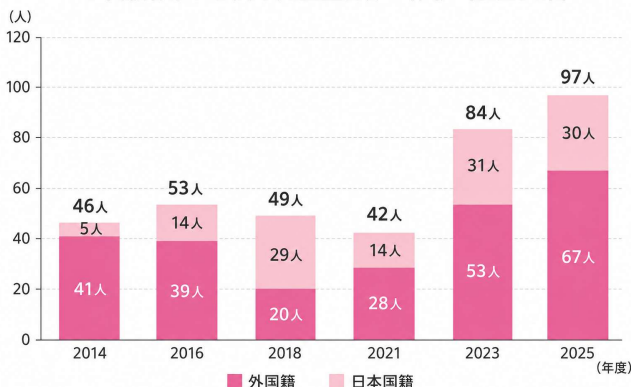
印象に残っているのは、ネパール出身の児童との関わりです。その子は来日して間もない頃、日本語がほとんど分からず、周囲から誤解されたり、心ない言葉をかけられたりすることもありました。そこで学級担任と相談し、「その子が輝ける時間をつくらう」と考え、授業中に母語で話してもらう機会を設けました。当然周囲はポカンとしています。そこで私は、「この子は、みんなが今感じているような状況の中で授業を受けているんだよ」と伝えました。すると、子どもたちの見方が大きく変わり、「ネパール語も日本語もできるなんてすごい」という声が聞かれました。その子自身も少しずつ自信をつけていきました。私は、日本語指導は日本語を教えることだけではないと思っています。その子の良さや強みが認められ、

学校が居場所になることが大切です。そうした経験が、自信や将来への希望につながるのだと思います。後日、その子が学級で手を挙げて発表している姿を廊下から見た時は、本当に嬉しかったですね。私には、学級の一員として安心して過ごし、自分らしく成長している姿に見えました。

Q5 日本語教室では、地域とのつながりも大切にされていたそうですね。

はい。日本語指導ももちろん大切ですが、子どもたちには、鹿児島の地域や文化について知ってもらい、「ここが自分の居場所だ」と感じてもらうことも大切だと思っていました。そのため、日本語教室では、教科と日本語の統合学習にも取り組んでいました。例えば、社会科の内容として鹿児島の地形や歴史、文化などを学んだり、お祭りの参加や大島紬に触れる機会も設けました。その時に印象に残っているのが、ネパール出身の児童が、大島紬を見ながら「ネパールにも似た織物があるよ」と教えてくれたことです。その子の中で、ネパールと鹿児島という二つの文化が自然につながった瞬間だったように感じました。外国ルーツの子どもたちには自分のルーツを大切にしながら、鹿児島とのつながりも感じてほしいと思います。

日本語指導が必要な児童生徒数の推移（鹿児島県）



※ 出典：文部科学省「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（各年度）のデータをもとに作成
※ 小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校（公立）が対象

Q6 現在、学校現場ではどのようなことに苦勞されているのでしょうか。

―まず、先生方から多く聞かれるのが、「日本語が通じないので、どう対応したらよいか分からない」という声です。初めて外国ルーツの児童生徒を受け入れる先生方にとっては、不安になるのも当然です。そんな時、私がまずお伝えするのは、「この子たちも戸惑っているんです」ということです。親の都合で来日し、言葉も分からないまま新しい環境に入ってきています。でも、日本語が分からなくても、同じ子どもです。だからまずは、「この子たちが安心して過ごせる場所をつくりましょう」とお話ししています。また、「自己主張が強くトラブルになる」といった相談もあります。しかし、自分の考えをはっきり伝えることが大切だと教わる国もありますし、日本語でうまく気持ちを表現できていないだけかもしれません。そんな時は、翻訳機なども活用しながら、先生が寄り添い、まずは話を聞いてあげることが大切です。一方で、保護者対応に悩む先生方も少なくありません。「お便りを翻訳しても伝わらない」といった相談をよく受けます。学校のお便りは時候の挨拶や敬語が多く、そのまま翻訳しても内容が伝わりにくいことがあります。そこで大切になるのが「やさしい日本語」です。難しい表現を避け、相手に伝わる形で伝える工夫も必要だとお伝えしています。また、「学校を理解してくれない」という相談もあります。しかし、日本の学校の仕組みや文化は世界共通ではありません。私はよく、「日本の学校の当たり前は、当たり前ではないんです」とお伝えしています。実際に、私も保護者対応で失敗した経験があります。以前、日本語教室に通っていた子どもは日本語を身に付けて働けるようになってほしかったと言われたことがありません。日本では当たり前でも、国によってはそうではありません。「分かっているはず」と思わず、丁寧に説明することの大切さを学びました。外国ルーツの子どもたちへの支援に決まった答えはありません。一人ひとりの様子を見ながら、



日本語の指導で使用している教材の一部

その子に合った対応を考えていくことが大切です。特別な能力が必要なものではなく、子どもの気持ちに寄り添い、理解しようとする。先生方が普段から大切にしている姿勢が、そのまま支援につながるのだと思っています。

Q7 先生は「多文化共生マネージャー」の認定も受けていらっしやいますが、取得したきっかけと、受講して感じたことを教えてください。

―日本語教室で子どもたちや保護者と関わる中で、学校だけでは解決できない課題がたくさんあることに気がきました。例えば、保護者の方が日本語に困っていたり、地域とのつながりがなかったりすると、家庭全体が孤立してしまうことがあります。子どもも保護者もいずれば地域の中で生活していく存在です。そのため、学校だけでなく地域とのつながりも大切だと考えるようになりました。そんな時に出会ったのが、多文化共生マネージャーの研修でした。外国人住民を支援の対象としてだけではなく、「ともに地域で暮らす仲間」として捉える考え方に強く共感し、受講を決めました。受講して大きかったのは、知識と人脈が広がったことです。研修には全国の自治体職員や国際交流協会職員、その他関係者など、さまざまな立場の方が参加しています。今でも情報交換が続いており、誰かが悩みを共有すると、全国の仲間から経験やアイデアが寄せられます。こうした仲間の存在は本当に心強く、大きな支えになっています。また、子どもや保護者を見る視点も深まりました。保護者の背景や来日までの経緯を丁寧に聞いていくと、その家庭が置かれている状況が見えてくることがあります。そうした背景を知ることでも子どもへの理解も深まりますし、必要に応じて地域の日本語教室や相談窓口などにつながることもできます。目の前の困りごとだけでなく、その背景にも目を向けながら子どもを理解していく。その視点をより強く持てるようになったことは、大きな変化だったと感じています。



学校での日本語指導に対する支援の様子

Q8 最後に、今後の目標を教えてください。

―実は、私の目標は、日本語指導支援専門員という役職がなくなることです。もちろん、日本語指導が必要な子どもたちがいなくなるという意味ではありません。私がいなくても、各学校の先生方が外国ルーツの児童生徒に対応できるようにすることが目標です。先生方は、もともと子どもたちを見る力を持っています。外国ルーツの子どもたちへの対応も、決して特別なものではなく、日頃の教育の延長線上にあると思っています。一人ひとり状況が違うので、決まった答えがあるわけではありません。だから私は、答えを示すというよりも、先生方が子どもに向き合いながら考え、自信を持って対応できるよう背中を押す存在でありたいと思っています。そのため、学校を訪問した後も継続的に連絡を取りながら、先生方と一緒に考えることを大切にしています。支援を受けた先生方が、次に外国ルーツの子どもを受け入れた時には、自分たちで考え、対応できるようになる。そんな先生方が県内に増えていけば嬉しいですね。また、外国ルーツの児童生徒への支援は、学校だけで担うものではないと思っています。外国人家庭が転入した際に、教育委員会が家庭の状況や子ども日本語の状況などを把握し、学校へ必要な情報を共有できれば、先生方は子どもたちへの支援により力を注ぐことができます。必要に応じて関係機関や地域の支援につながることで、学校だけで抱え込まない体制づくりも大切だと思います。

外国ルーツの子どもたちも、これからの鹿児島を支える大切な地域の一員です。一人ひとりが安心して学び、自分らしく成長していけるよう、学校や教育委員会、地域が連携しながら支えていける環境が広がっていけばと思っています。私も日本語指導支援専門員として、そうした環境づくりに少しでも力を尽くしていきたいと思います。



支援後の協議の様子

(注釈)

※1「やさしい日本語」…難しい言葉を言い換える等、相手に配慮した分かりやすい日本語のこと(出入国管理庁)

※2「多文化共生マネージャー」…地域の多文化共生推進の担い手として、日本人も外国人も共に暮らしやすいまちづくりを目指し、施策の立案・実践や関係者間のコーディネートなどを行う人材(一財)自治体国際化協会

JICA 海外協力隊秋募集が始まります！

開発途上国を舞台に、現地の人々と共に生活し、同じ目線に立って、課題に取り組む海外ボランティア。JICA 海外協力隊は年2回の募集期があり、これまでに約5万人以上の方が派遣されてきました。鹿児島県からも1000名を超えるJICA 海外協力隊が出発しており、世界も、日本も、鹿児島も元気にする存在として、帰国後の活躍にも期待が寄せられています。

「人生なんてきっかけひとつ」

まずは、お気軽にお問合せください！

＜2026 年度秋募集説明会@鹿児島＞

9月12日(日) 15:00-17:00

会場：センテラス天文館図書館

※一部、オンライン参加可。ご希望の方は、
二次元バーコードよりお申込ください。



＜当日の内容＞

- ・JICA 海外協力隊概要説明
- ・協力隊経験者による体験談
- ・座談会
- ・質疑応答



秋募集 応募期間 09/02 ▶ 10/02



「いつか挑戦してみたい」
その気持ちを、
“まず知ること”から
はじめてみませんか？

JICA海外協力隊は、
20歳から69歳まで応募可能。
教育・保健医療・農業・地域づく など、
さまざまな分野で経験を生かします。



JICA デスク鹿児島 担当:飯屋 TEL:090-7167-4238 (公財)鹿児島県国際交流協会内

がいこくじんそうごうそうだんまどぐち 外国人総合相談窓口

かごしまけん す がいこくじん せいかつ なや そうだん
鹿児島県に住む外国人のみなさん、生活の悩みがあったら相談してください。
ざいりゅうしかく しごと びょうき しゅっさん こ きょういく じょうほう せんもん ばしょ つた
在留資格・仕事・病気・出産・子どもの教育などについて、あなたにあった情報や専門の場所を伝えます。

※26の言語で相談をすることができます。

日本語、英語、ベトナム語は相談窓口で対応します。

その他の言語：中国語、タガログ語、韓国語、インドネシア語、ネパール語、クメール語、タイ語、ミャンマー語、ポルトガル語、スペイン語、マレー語、フランス語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、ベンガル語、ウルドゥー語、トルコ語、アラビア語は、多言語コールセンターなどを活用します。

こまったときは、電話してください。

☎ 070-7662-4541 (火曜日～日曜日 9:00-17:00)

メール (kiasoudan@gmail.com) や facebook でも相談できます。

場所：鹿児島県国際交流協会 ↓↓↓



homepage



facebook



mail

編集・発行

公益財団法人 鹿児島県国際交流協会

〒892-0816

鹿児島市山下町14-50カクイックス交流センター1階

TEL: 099-221-6620

Email: kia@kiaweb.or.jp

開所：火曜日～日曜日 9:00-17:00



▲ホームページ



▲facebook

